

令和4年度気仙沼市病院事業の取組に係る 点検及び評価報告書 資料編



各取組項目については、以下の区分で評価をしています

評価区分

A	定量的な目標	計画どおり目標が達成され、評価できる
	定性的な目標	組織一丸となってこれまで以上に取り組み、評価できる
B	定量的な目標	計画どおりの目標は未達成であるが、目標値に近く、やや評価できる
	定性的な目標	特定の部署が、これまで以上に取り組み、やや評価できる
C	定量的な目標	目標達成に向けた取組が不十分で、計画が未達成であり、今後の取組に期待する
	定性的な目標	これまでの取組と特に変わらず、今後の取組に期待する
D	定量的な目標	目標達成に向けた取組方法についての検討段階であり、今後の取組に大いに期待する
	定性的な目標	これまでの取組より活動量が減り、今後の取組に大いに期待する
E	定量的な目標	未実施
	定性的な目標	未実施

経営の効率化に向けた取組状況とその評価

気仙沼市立病院

新型コロナウイルス感染症の影響により病床管理が困難な中、前年度並みの病床利用率を維持したほか、診療報酬改定への対応やDPCの円滑な導入、未収金対策の徹底に取り組みました

市立病院 経営の効率化に向けた取組（１）

病院	新改革プランにおけるアクションプラン		R 4 年度の取組状況	各年度の評価					
				R 4 年度	R 3 年度	R 2 年度	R 元年度	H 30 年度	H 29 年度
市立病院	収益向上策	病床管理の適正化	- 病床利用率は令和 3 年度の70.5%より0.8ポイント上昇し、71.3%となった。病棟ごとの目標設定を継続しつつ、毎日のミーティングで空床状況を共有するなど、病床管理の適正化に努めた - 効率的な病床運営の実現に向け、クリニカルパス29症例を追加作成し、令和 4 年度は97症例となった 1日当たり入院患者数は242.6人となり、令和 3 年度の239.6人と同水準の患者を確保した	B	B	C	B	B	B
		診療部門と医事課の連携強化	- 医療の標準化・効率化を進めるためDPC※を導入した - 令和4年度の診療報酬改定に対応するとともに、Dダイマーのスクリーニング、電子処方箋、医師資格証について、医局会議で説明した - 収益改善に向け救急室のコスト研修や地域包括ケア病棟に関する勉強会を開催した	A	A	B	B	B	C
		未収金対策の徹底	- 令和元年度から実施している弁護士法人へ未収金徴収業務の一部委託を継続するとともに、債務者ごとに徴収計画を策定し、医事課職員による訪問徴収を実施した - 年度当初より回収率の目標を掲げ、係員一同で基本的な督促業務を徹底した結果、令和 4 年度の徴収額は35,184千円となり、過年度未収金に対する回収率は過去最高の60.6%となった - 発生防止に向け、連帯保証人代行制度、医療費後払システム及び救急患者預り金クレジットカード決済の導入等の検討を進めた	A	A	A	B	C	C
		市民への検診啓発	検診（健診）担当医を配置できず、検査体制の整備等が課題となっており、一般健診及び脳ドックに対応したものの、人間ドックは実施できなかった	C	C	C	C	C	C

※DPC 疾患を診療行為に応じて分類し、各分類で厚生労働省が定めた定額点数で入院医療費の一部を計算する方式

医薬品・診療材料は、引き続き、ベンチマークシステムを活用し、納入価格の低減に取り組みました

市立病院 経営の効率化に向けた取組（２）

病院	新改革プランにおける アクションプラン		R 4 年度の実施状況	各年度の評価					
				R 4 年度	R 3 年度	R 2 年度	R 元 年度	H30 年度	H29 年度
市立病院	費用削減策	医薬品、診療材料、物品購入価の低減化	【医薬品】 - バイオシミラー薬※への切替割合については、東北大学等近隣の高度医療機関の実施状況と歩調を合わせており、令和4年度は53.8%と令和3年度と比較して、7.7ポイント低下しているものの、継続して後発医薬品への切替を積極的に進めた結果、令和4年度の後発医薬品への切替割合は87.6%と前年度の87.5%と同水準を維持しており、医薬品購入金額の低減に貢献した - 全国自治体病院協議会の医薬品ベンチマーク分析システムを活用し、ベンチマークの値引率を参考に価格交渉を実施した 【診療材料】 - 令和2年度に導入したベンチマークシステムを活用した交渉による価格の低減等に取り組んだ結果、燃油高騰による値上げの中、年間約743万円の費用を削減した 【医療機器関連】 - 医療機器整備委員会において、整備要望機器を審査しており、令和4年度は、医療機器購入申請63件（見積額4.25億円）のうち、28件（見積額2.95億円）を見合わせるなど、適切な機器購入に努めた	A	A	A	B	B	C
		内視鏡等の中央化	これまでに中央管理化した医療機器の管理を継続し、人工呼吸器、輸液ポンプ、シリンジポンプ、フットポンプ及びメラ低圧吸引器の点検は治療終了毎に、手術室麻酔器の点検は週2回実施した	B	B	B	A	A	A

※ バイオシミラー薬 バイオ後続品。先行バイオ医薬品と同等・同質の品質、有効性及び安全性を有する医薬品

令和4年度もボランティアの活用を見送りましたが、職員の接遇向上への意識の高まりにより、患者満足度は入院・外来ともに改善しています

市立病院 経営の効率化に向けた取組（3）

病院	新改革プランにおけるアクションプラン		R4年度の実績状況	R4年度実績数値	各年度の評価					
					R4年度	R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度
市立病院	サービス向上策	患者満足度調査	- 令和4年11月に入院・外来で患者満足度調査を実施した - 外来は0.6ポイント上昇し71.7%に、入院は3.0ポイント上昇し83.8%になり、入外ともに満足度が上昇し、過去最高の評価が得られた。要因として、継続して患者満足度調査を実施し、振り返りを行っていることで職員等の接遇向上に対する意識が高まっていると考えられる	外来：71.7% 入院：83.8%	A	B	E	C	C	E
		待ち時間短縮	- 予約診療制の徹底を図るとともに、外来患者の会計が混み合う時間帯は会計入力の職員を加配するなど、待ち時間短縮に向けた取組を継続した - 受付から会計までの平均所要時間は、平成29年11月（新病院開院当時）時点の2時間46分より37分短縮され、2時間9分となった - 予約受診患者の予約時間から会計までの平均所要時間は、1時間57分より16分短縮され、1時間41分となっている	令和4年12月実績 2時間9分	A	A	A	A	A	A
		病院機能評価受審検討	受審時期を決定し、令和6年10月受審に申し込みを行うとともに、引き続き部署ごとに課題解決等準備を進めた	—	A	A	B	D	D	D
		ボランティアの活用	総合患者支援センター（がん相談支援）での相談業務の導入を見込んでいたが、新型コロナウイルス感染症が収束していない段階での導入は困難なため、令和4年度も見送った	—	D	D	D	D	E	E

入院・外来収入の増加，診療材料に対するコスト削減の取組成果に加え，新型コロナウイルス感染症対策の補助金もあり，２期連続の経常収支黒字を達成することができました

市立病院 収支改善に係る数値目標について（１）

病院	新改革プランにおけるアクションプラン		R 4 年度の実績状況	R 4 年度実績数値	各年度の評価					
					R 4 年度	R 3 年度	R 2 年度	R 元年度	H 30 年度	H 29 年度
市立病院	収支改善	経常収支比率 参考値： 96.6%	- 令和３年度実績の108.3%と比べ，2.0ポイント低下し，106.3%となった - 燃油価格高騰の影響があったものの，医業収益の確保と医療材料費等の経費削減に努めたことに加え，新型コロナウイルス感染症対策の補助金もあり，経常収支で黒字を２期連続で達成することができた	106.3%	A	A	A	B	B	C
		医業収支比率 参考値： 87.8%	- 令和３年度実績の80.3%と比べ，2.0ポイント上昇し，82.3%となった - 新型コロナウイルス感染症が流行する中でも，入院・外来ともに前年度と同水準の患者数確保に加え，DPC制度への移行，令和４年度診療報酬改定へ適切に対応したこと等で，診療単価のさらなる底上げができた	82.3%	B	B	B	B	C	C
	経費削減	職員給与費対医業収益比率 参考値： 46.2%	- 医師や研修医の増員により，若干の増加傾向が見られるものの，医業収益の増もあり，令和３年度実績の54.3%と比べ，0.7ポイント改善し，53.6%となった - 参考値の46.2%からは7.4ポイントの乖離があるが，主な要因は「地方公営企業決算の状況」において，会計年度任用職員分の給与が職員給与に計上されることになったため，常勤職員のみの場合48.3%である	53.6%	B	B	B	B	B	B
		材料費対医業収益比率 参考値： 22.8%	- 令和３年度実績の22.7%と比べ0.4ポイント改善し，22.3%となった - 薬事審議会での協議を基にした薬剤科主導による後発医薬品への切替えや医療材料管理委員会によるコスト削減の取組を継続したことで令和４年度も目標を達成できた	22.3%	A	A	A	B	B	C

入院・外来ともに前年度とほぼ同水準の患者を確保すると同時に、入院・外来の診療単価が上昇しており、収入の増加がさらに進んでいます

市立病院 収支改善に係る数値目標について（２）

病院	新改革プランにおけるアクションプラン		R 4 年度の実績状況	R 4 年度実績数値	各年度の評価					
					R 4 年度	R 3 年度	R 2 年度	R 元年度	H30 年度	H29 年度
市立病院	収入確保	病床利用率 参考値：92.1%	- 各病棟で目標患者数の設定を継続するとともに、看護部内で入退院情報を共有し、ベッドコントロールを行うことで、病床利用率の向上に努めた。その結果、令和4年度の1日当たり入院患者数は242.6人（令和3年実績：239.6人）となっており、前年度と同水準の患者を確保できた - 新型コロナウイルス感染症に対応するため空床としている分を除いた病床利用率は81.5%であり、令和3年度実績84.4%より2.9ポイント低下した - 入院単価は令和3年度実績の49,716円を上回り、52,175円となった	71.3% (81.5%)	B	B	C	B	C	C
		1日当たり入院患者数 参考値：313人		242.6人	B	B	C	B	C	C
		1日当たり外来患者数 参考値：1,015人		842.5人	B	B	B	B	B	C
	経営安定	医師数 (研修医含む) 参考値：54人	- 市長、事業管理者、経営管理部長が東北大学医学部等を訪問し、医師派遣の依頼を継続して行った - 病理診断医1名が常勤として勤務し、形成外科医2名が非常勤として週1回ずつの交代勤務を開始した	66人	A	A	A	A	A	A

DPC制度を導入したことによる入院収益の向上等により、医業収益は過去最高を更新し、純利益6.5億円の黒字決算となりました

市立病院の収益推移

損益計算書 (単位：百万円)	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度
医 業 収 益	7,505	7,410	7,756	7,943	7,559	7,972	8,199
医 業 費 用	8,442	8,707	10,121	10,074	9,785	9,928	10,002
医 業 損 益	△937	△1,297	△2,365	△2,130	△2,226	△1,957	△1,803
医 業 収 支 比 率	88.9%	85.1%	76.6%	78.8%	77.2%	80.3%	82.0%
医 業 外 収 益	701	742	2,023	1,826	2,467	3,389	3,041
医 業 外 費 用	444	499	544	578	592	566	568
経 常 損 益	△680	△1,054	△886	△882	△352	867	670
経 常 収 支 比 率	92.3%	88.6%	91.7%	91.7%	96.6%	108.3%	106.3%
特 別 利 益	0	1	1	0	1,266	0	0
特 別 損 失	16	57	36	7	1,775	107	12
当 期 純 利 益	△696	△1,110	△921	△889	△860	760	658
資本剰余金の処分と 資 本 金 の 減 少	—	—	—	—	—	3,802	—
当 期 未 処 分 利 益	△7,693	△8,803	△9,724	△10,614	△11,474	△6,911	△6,253

※端数の影響により、数値に差異がでることがあります

新型コロナウイルス感染症の影響が残るものの、入院の延患者数、単価の両面で前年度を上回り、収入が過去最高となりました

市立病院 収入の内訳（令和4年度実績）

収入	R4 年度実績 (単位：百万円)
1 医 業 収 益	8,199
(1) 料金収入	7,807
(2) その他	392
うち他会計負担金	302
2 医 業 外 収 益	3,041
(1) 他会計負担金・補助金	734
うち基準外繰入	12
薬剤師等奨学金返還支援補助分	1
新病院企業債利息分	11
(2) 国(県)補助金	1,171
うち新型コロナウイルス感染症対策事業医療提供体制整備補助分	1,139
(3) 長期前受金戻入	1,047
(4) その他（附帯事業収益含む）	89
経 常 収 益	11,240

料 金 収 入	入院収益	=	延患者数	×	入院1日当たり単価
	4,620百万円		合計：88,540人 一般：73,863人 回復期：12,517人 感染症：2,160人		全体：52,175円 (一般・回復期)
	外来収益	=	延患者数	×	外来診療単価
	3,187百万円		204,735人 1日当たり：842.5人		全体：15,569円

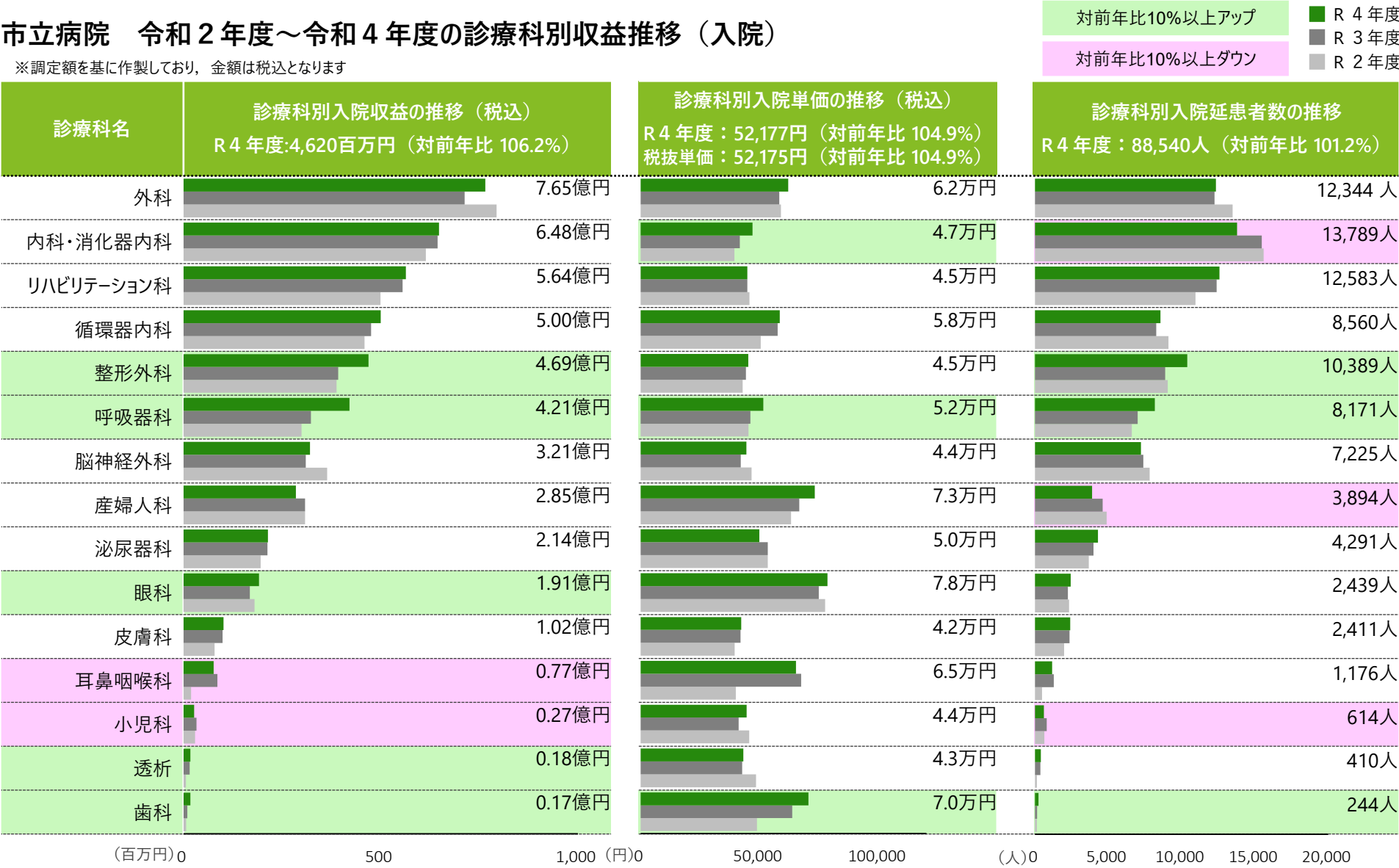
そ の 他	その他医業収益				
	室料差額 収益	公衆衛生 活動収益	医療相談 収益	その他 医業収益	他会計 負担金
	15百万円	38百万円	1百万円	36百万円	302百万円

※端数の影響により、数値に差異がでることがあります

令和4年度からDPC制度による診療報酬請求を開始したことで、診療科全体の入院単価が52,175円<<税抜>> (52,177円 <<税込>>)となりました

市立病院 令和2年度～令和4年度の診療科別収益推移（入院）

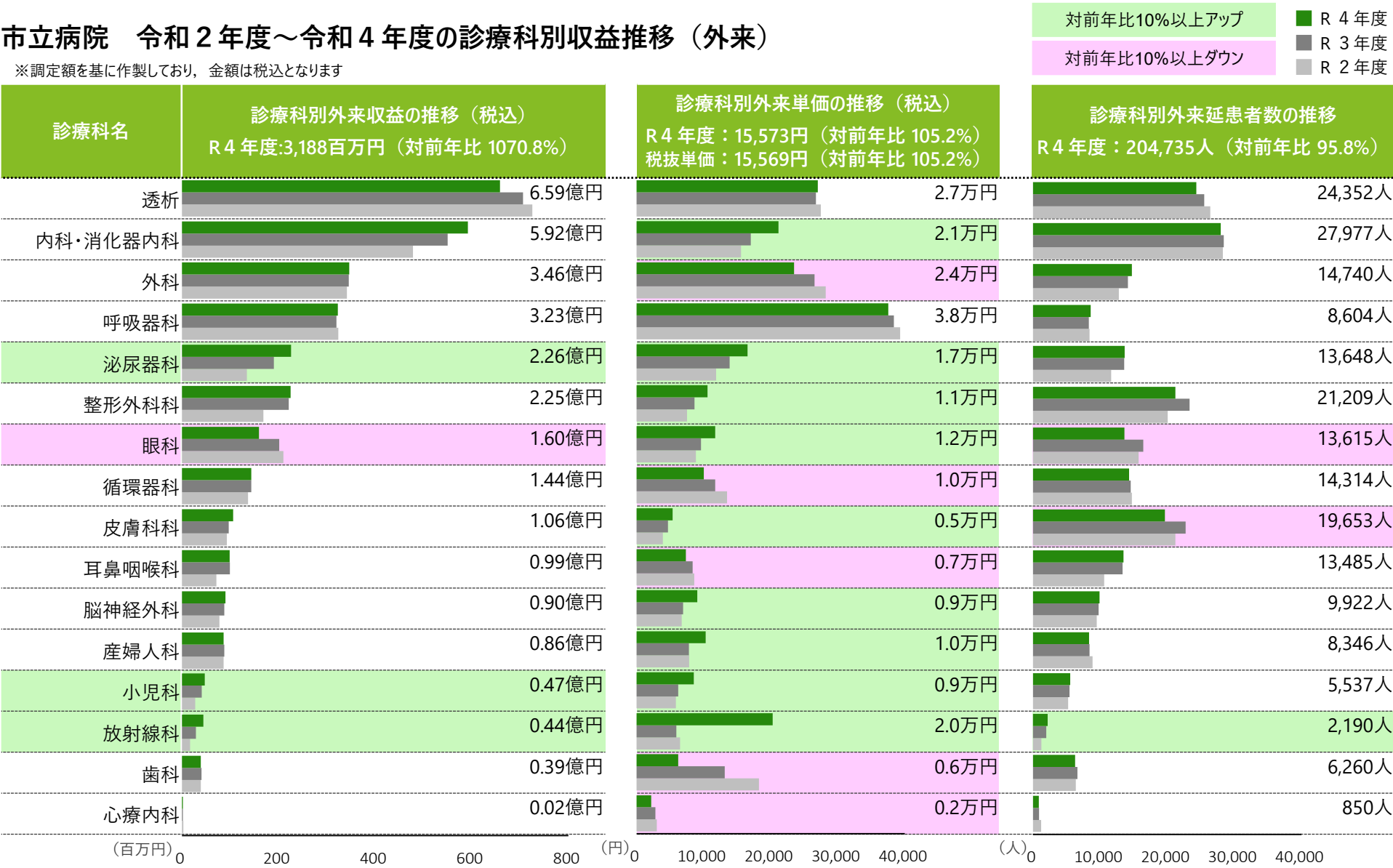
※調定額を基に作製しており、金額は税込となります



予定入院患者に対する入院前検査の推進や治療が完結した患者の逆紹介等， 外来でのより一層丁寧な診療と病診連携に取り組んだ結果， 外来単価も過去最高を更新し15,569円≪税抜≫ (15,573円≪税込≫)となりました

市立病院 令和2年度～令和4年度の診療科別収益推移（外来）

※調定額を基に作製しており，金額は税込となります



医師の増員等による常勤職員給与費の増加や、電気料金等の高騰により、費用全体も増加となりました

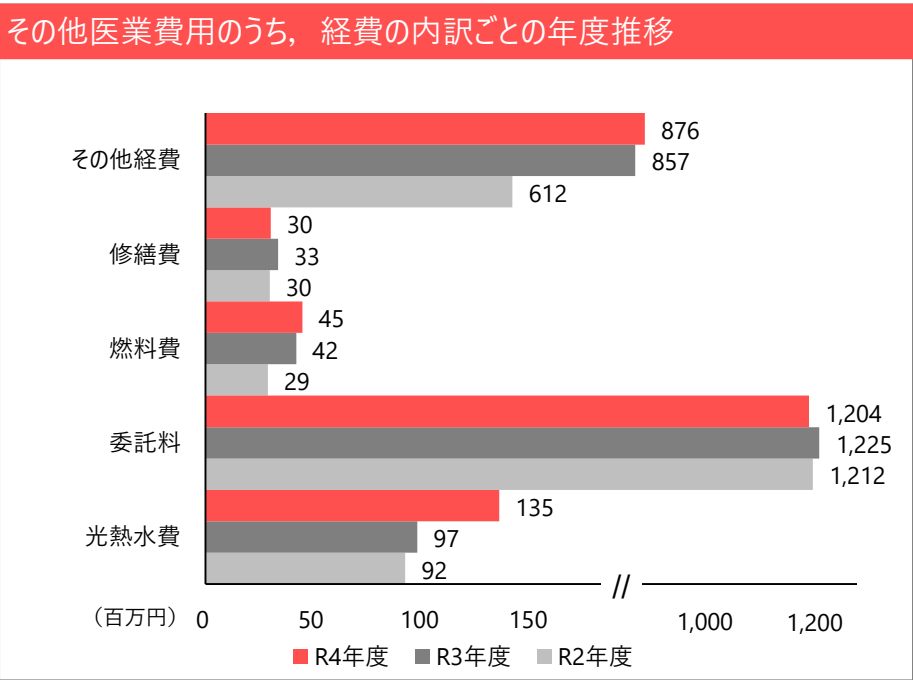
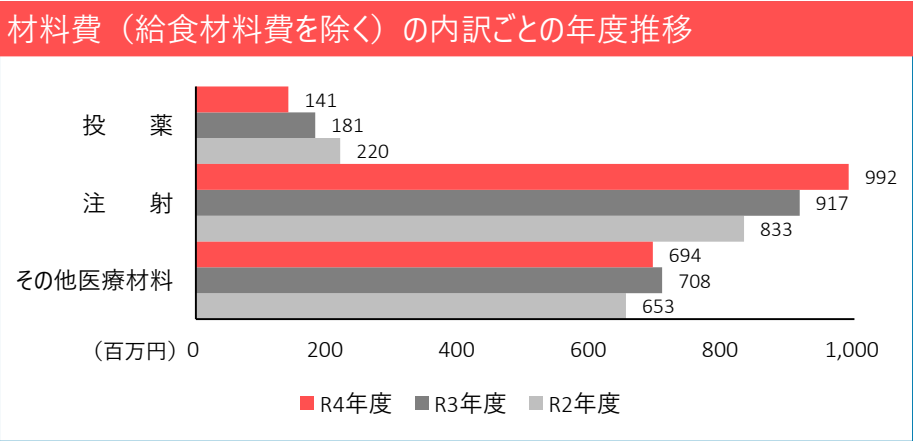
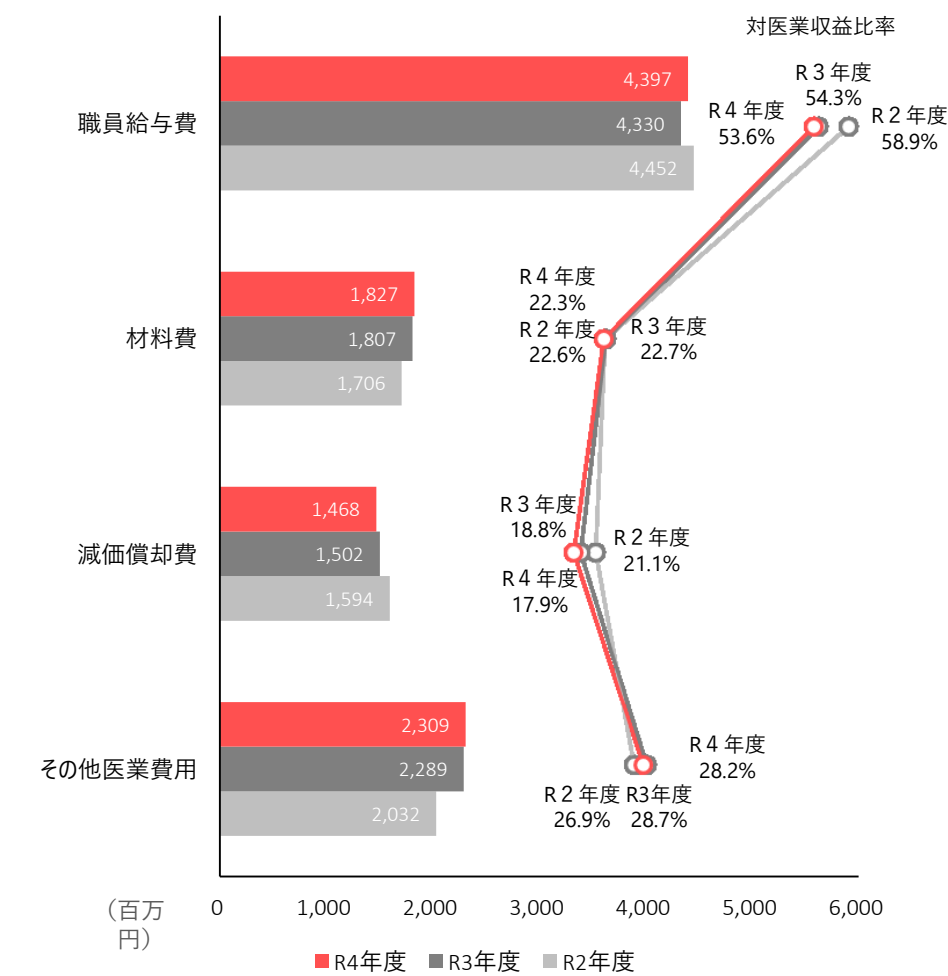
市立病院 費用の内訳（令和4年度実績）

費用	R 4 年度実績		職員給与費	常 勤 職 員		+	会計年度任用職員				
	金額 (単位：百万円)	対医業収益比率		3,964百万円 (対前年：+89百万円) 対医業収益比率：48.3%			434百万円 (対前年：-21百万円)				
1 医 業 費 用	10,002	122.0%	材料費	薬品費用		+	その他医療材料		+	給食材料費	
（1）職員給与費	4,397	53.6%		投 薬	注 射						
（2）材料費	1,827	22.3%		141百万円 (対前年： -41百万円)	992百万円 (対前年： +75百万円)		694百万円 (対前年： -14百万円)	1.2百万円 (対前年： +0.5百万円)			
（3）経費	2,290	27.9%									
（4）減価償却費	1,468	17.9%									
（5）資産減耗費	8	0.1%									
（6）研究研修費	11	0.1%									
2 医 業 外 費 用	568	6.9%	経 費	委託料	光熱水費	燃料費	修繕費	その他経費			
（1）支払利息	23	0.3%		1,204百万円 (対前年： -21百万円)	135百万円 (対前年： +38百万円)	45百万円 (対前年： +2.8百万円)	30百万円 (対前年： -3.4百万円)	876百万円 (対前年： +19百万円)			
（2）看護学院費	110	1.3%									
（3）その他	436	5.3%									
経 常 費 用	10,570	128.9%									

※端数の影響により、数値に差異がでることがあります

後発医薬品への切替の促進，診療材料のコスト削減の取組を継続しており，医業収益に占める各費用の割合は減少しています

市立病院 令和2年度～令和4年度 費用内訳別推移



気仙沼市立本吉病院

令和4年度もこれまでと同様、 確実な診療報酬の算定と材料費の節減に取り組みました

本吉病院 経営の効率化に向けた取組（１）

病院	新改革プランにおける アクションプラン		R 4 年度の実施状況	各年度の評価					
				R 4 年度	R 3 年度	R 2 年度	R 元 年度	H 30 年度	H 29 年度
本吉病院	収益向上策	診療部門と医事部門の連携	- 令和4年度に感染対策向上加算3の届出を行い、感染対策の向上に取り組むとともに収益の増加につなげた - 診療部門に対する勉強会等は開催できなかったものの、必要に応じて、院長・看護師長等も交えた検討を行い、適切な診療報酬の算定に努めた	B	B	B	A	A	B
		未収金対策の徹底	令和5年3月末時点の患者負担未収金額は、令和3年度と比較し478千円(△24.2%)減少し、1,494千円となった。また、当該年度発生分の未収金も19.2%減少し1,277千円となり、単年での未収金発生は少額に抑えられ、回収率も向上した	A	A	A	A	A	A
		市民への検診啓発	11事業者（合計155人）に職場健診を提供し、地域住民の疾病予防に努めた - 定期受診している方にも、健診機会時には受診するように勧めた	C	C	C	C	C	C
	費用削減策	医薬品、診療材料の節減	- これまでの取組を継続し、管理課を中心としながら価格交渉、在庫管理を徹底した - 市立病院が活用している診療材料共同購入へ参加するとともに、後発医薬品を採用し、費用の削減に努めた	A	A	A	A	A	A

令和4年度も患者満足度調査を実施できなかったことから、サービスの向上につなげていくためにも令和5年度以降は実施方法の見直しも含め検討する予定です

本吉病院 経営の効率化に向けた取組（2）

病院	新改革プランにおける アクションプラン		R4年度の取組状況	各年度の評価					
				R4年度	R3年度	R2年度	R元年度	H30年度	H29年度
本吉病院	サービス向上策	患者満足度調査	- 新型コロナウイルス感染症の影響もあり家族面会等を制限しており、患者満足度調査を実施できなかった - 令和5年度は、調査の対象を外来患者及び在宅患者にするなど、実施方法の見直しも含め検討することにした	E	E	B	A	C	E
		待ち時間短縮	- これまでと同様に、原則予約診療の徹底、医師・看護師がトリアージすることで感染拡大の防止を図りながら、診療優先順位を明確化することで待ち時間短縮に取り組んだ - 令和3年度より外来患者が増加したものの、発熱患者に対するドライブスルー診察等への対応に慣れたこともあり、予約患者は平均28分（前年比－1分）、予約外患者は平均55分（前年比＋1分）と待ち時間が大きく伸びることもなく対応できた	B	B	B	B	C	C

新型コロナウイルス感染症が流行した中でも、医業収益を増加させたことにより、各経営指標は前年度を上回ることができました

本吉病院 収支改善に係る数値目標について（１）

病院	新改革プランにおけるアクションプラン		R 4 年度の実績状況	R 4 年度実績数値	各年度の評価					
					R 4 年度	R 3 年度	R 2 年度	R 元年度	H 30 年度	H 29 年度
本吉病院	収支改善	経常収支比率 参考値：100.1%	- 新型コロナウイルス感染症が流行している中、外来の患者数増加や単価の上昇により、外来収益が36,515千円増加した - 経常収支比率は、令和 3 年度実績の104.8%と比べ2.2ポイント低下し、102.6%となったが、市からの繰入金を令和 3 年度より35,681千円減らすことができた	102.6%	A	A	B	B	A	A
		医業収支比率 参考値：60.6%	- 新型コロナウイルス感染症が流行している中、令和 3 年度と比較し、外来患者数が1日当たり5.3人増加、外来単価が932円上昇したことで、外来収益が36,515千円増加した - 入院患者数が令和 3 年度と比較し1日当たり1.1人減少したため、入院収益は8,901千円減少した - 外来収益の増加の影響もあり、医業収支比率は令和 3 年度と比較し1.7ポイント上昇し71.8%となった	71.8%	A	A	A	A	A	A
	経費削減	職員給与費対医業収益比率 参考値：95.1%	新型コロナウイルス感染症への対応等、職員の業務負担が増えている中、職員給与費を抑制し、医業収益の増加もあって、職員給与費対医業収益比率は令和 3 年度と比較し1.8ポイント改善し、86.8%となった	86.8%	A	A	B	A	A	B

限られた人員体制の中で、入院は前年度より微減となったものの、外来は1日当たり5人増の患者に対応した

本吉病院 収支改善に係る数値目標について（２）

病院	新改革プランにおけるアクションプラン		R 4 年度の実績状況	R 4 年度実績数値	各年度の評価					
					R 4 年度	R 3 年度	R 2 年度	R 元年度	H 30 年度	H 29 年度
本吉病院	収入確保	病床利用率 参考値：72.0%	- 入院患者の適切な受入れと、医師・看護師によるベッドコントロール、市立病院との連携を継続したが、令和4年度の延べ入院患者数は6,985人と令和3年度と比較し400人減少したため、病床利用率は令和3年度と比較し4.1ポイント低下した - 市立病院との連携においては、引き続き、市立病院の長期入院患者を受け入れる後方機能を果たし、2病院間での患者連携に注力している	70.9%	B	A	A	A	A	A
		1日当たり入院患者数 参考値：18人		19.1人	A	A	A	A	A	A
		1日当たり外来患者数 参考値：115人	- 新型コロナウイルス感染症の影響により外来受診控えの傾向がある中、1日当たり外来患者数は、令和3年度と比較し5.3人増加し、109.0人となった - 受診が必要な患者にはこれまでと同様に対応し、発熱患者にはドライブスルー診察を継続した	109.0人	B	B	B	A	A	A
	経営安定化	医師数 (研修医含む) 参考値：5人	- 常勤医の確保について、宮城県や東北大学病院等への要請を行った結果、常勤医4人体制を継続することができた - 総合診療医の確保と育成のため、市長、事業管理者、院長、経営管理部長が東北大学及び東北医科薬科大学と調整し、東北大学と協同での総合診療医育成プログラムの運営が決定され、令和5年度に総合診療専攻医が赴任することになった	4人	B	B	B	B	B	B

医業収益の増加により、経常損益 1 千 6 百万円の黒字決算とすることができました

本吉病院の収益推移

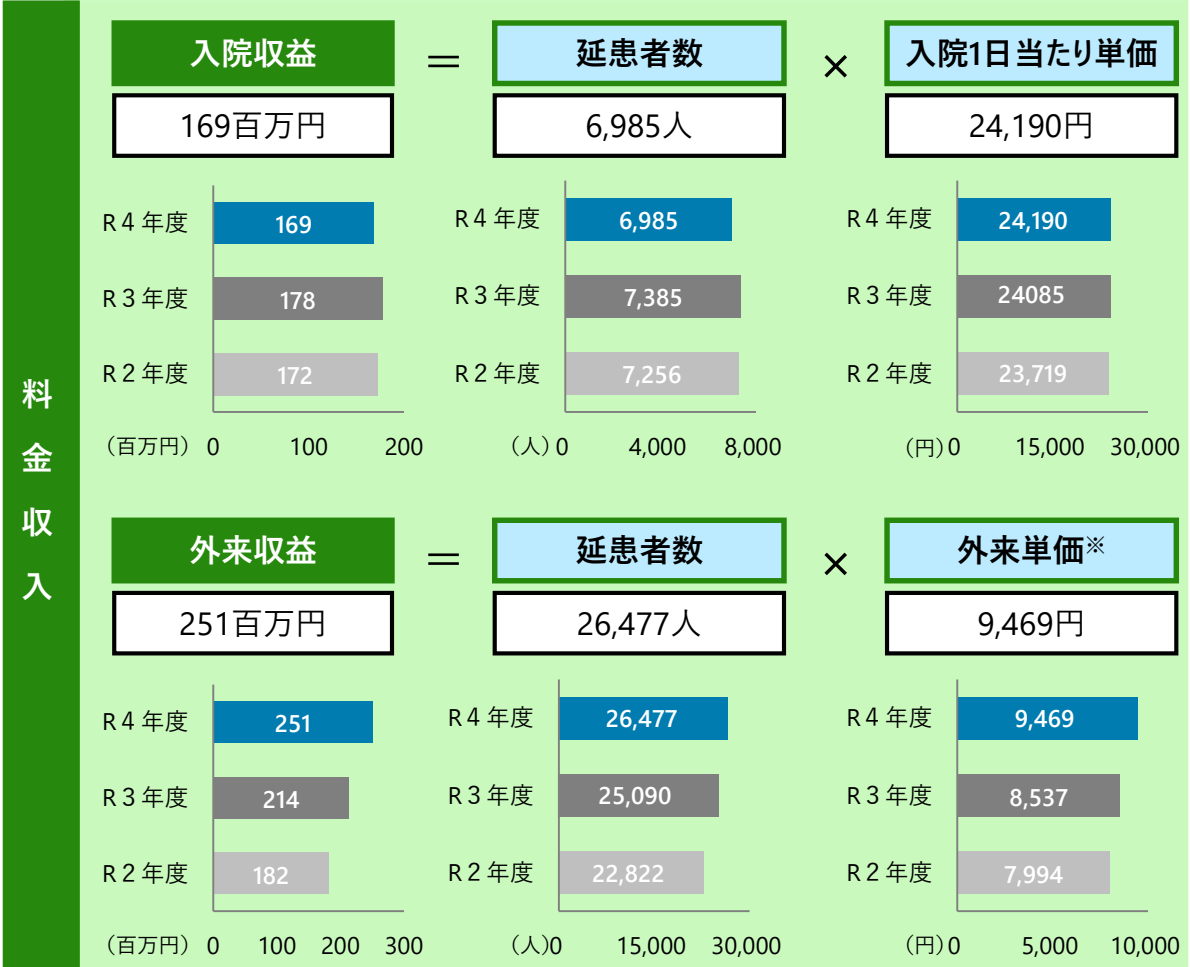
損益計算書 (単位：百万円)	H28年度	H29年度	H30年度	R 元年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度
医 業 収 益	358	398	424	397	376	422	444
医 業 費 用	583	604	595	590	587	602	619
医 業 損 益	△225	△206	△171	△193	△212	△180	△175
医 業 収 支 比 率	61.4%	65.9%	71.3%	67.3%	64.0%	70.1%	71.8%
医 業 外 収 益	249	223	202	189	227	227	210
医 業 外 費 用	13	14	15	15	17	17	19
経 常 損 益	11	3	15	△19	△2	30	16
経 常 収 支 比 率	101.8%	100.5%	102.6%	96.9%	99.7%	104.8%	102.6%
特 別 利 益	1	0	0	0	0	3	0
特 別 損 失	0	0	0	0	0	0	1
当 期 純 利 益	12	3	16	△19	△1	33	16
未処分利益剰余金 変 動 額							6
当 期 未 処 分 利 益	△114	△111	△95	△114	△115	△82	△60

※端数の影響により、数値に差異がでることがあります

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、入院収益が減少したものの外来収益・介護サービス収益を伸ばすことで
医業収益が対前年度を上回りました

本吉病院 収入の内訳（令和4年度実績）

収入	R4年度実績 (単位：百万円)
1 医 業 収 益	444
（1）料金収入	420
（2）その他	25
うち他会計負担金	0
2 医 業 外 収 益	210
（1）他会計負担金・補助金	176
うち基準外繰入	0
任期付職員人件費	0
（2）国(県)補助金	5
（3）長期前受金戻入	11
（4）その他	18
経 常 収 益	654



※総務省へ報告している令和4年度決算統計を基に作成しており、外来単価が「令和4年度気仙沼市決算書類」と異なります

無駄な支出を抑えた事業運営を意識していることもあり、 ほぼ例年と同水準の支出となりました

本吉病院 費用の内訳（令和4年度実績）

費用	R4年度実績	
	金額 (単位：百万円)	対医業収益比率
1 医業費用	210	139.3%
（1）職員給与費	385	86.8%
（2）材料費	52	11.7%
（3）経費	156	35.0%
（4）減価償却費	25	5.7%
（5）資産減耗費	0	0.0%
（6）研究研修費	0	0.1%
2 医業外費用	19	4.2%
（1）支払利息	1	0.1%
（2）看護学院費	0	0%
（3）その他	18	4.1%
経常費用	638	143.5%

職員給与費	常 勤 職 員		+	会計年度任用職員	
	336百万円 (対前年：+12百万円) 対医業収益比率：75.7%			49百万円 (対前年：-0.2百万円)	

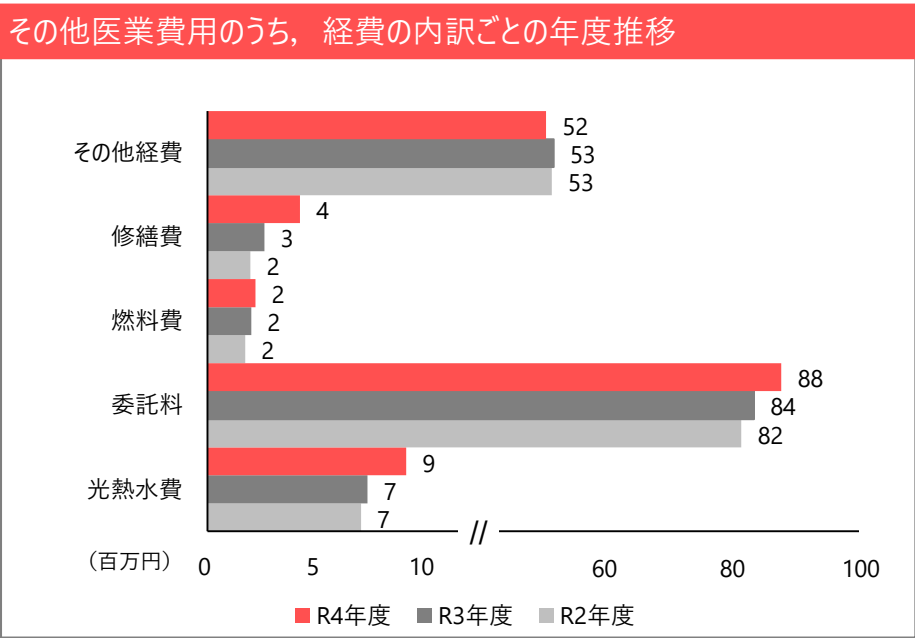
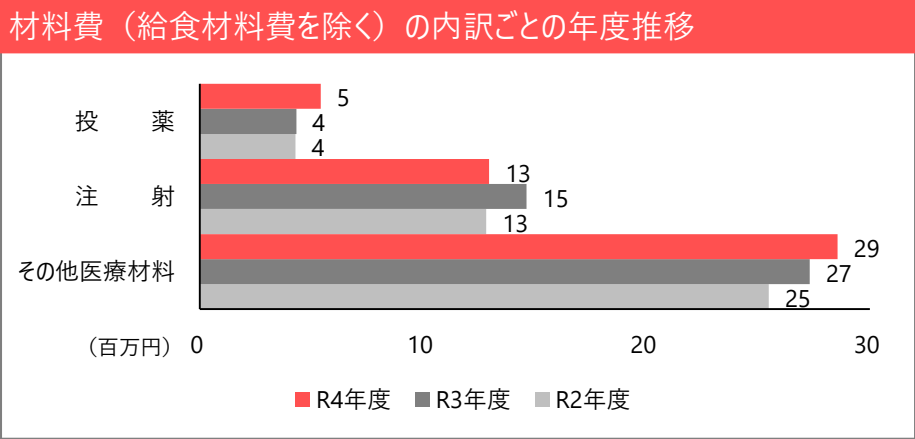
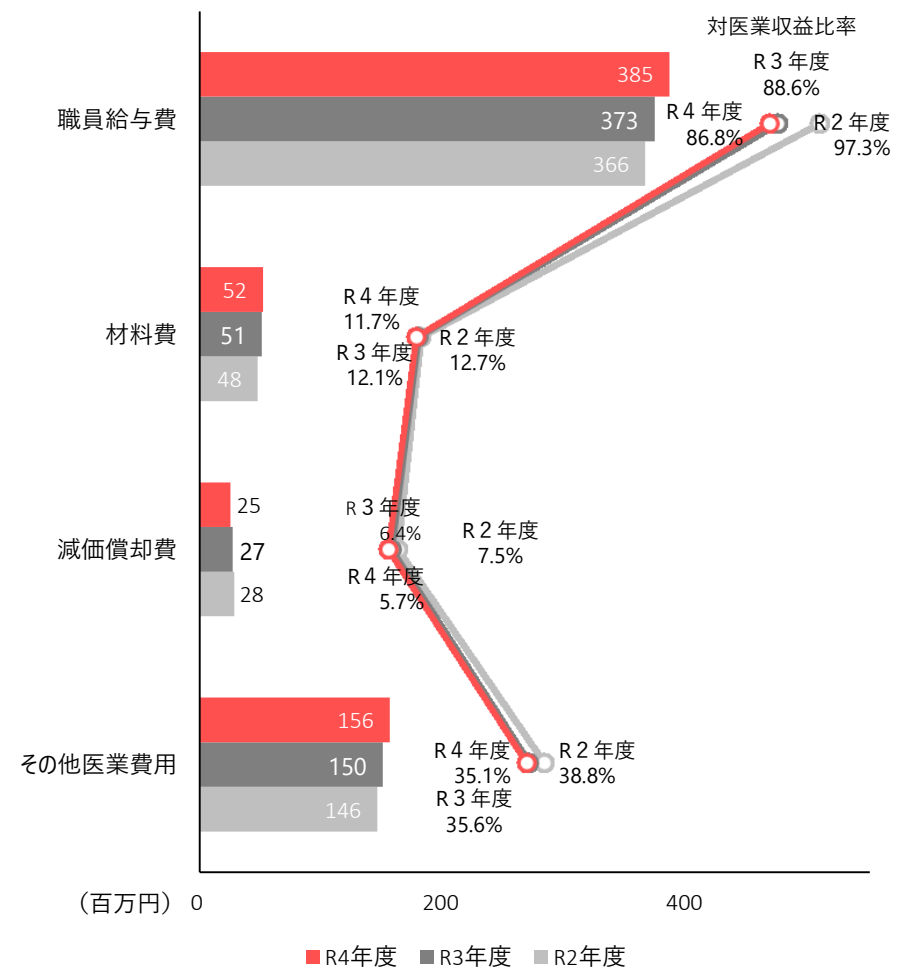
材料費	薬品費用		+	その他医療材料	+	給食材料費
	投 薬	注 射				
	5.4百万円 (対前年： + 1 百万円)	12.9百万円 (対前年： - 1.7 百万円)		28.5百万円 (対前年： + 1.2 百万円)		5.1百万円 (対前年： + 0.3 百万円)

経費	委託料	光熱水費	燃料費	修繕費	その他経費
	88.1百万円 (対前年： + 4.2 百万円)	9.2百万円 (対前年： + 1.8 百万円)	2.2百万円 (対前年： + 0.2 百万円)	4.3百万円 (対前年： + 1.6 百万円)	52.0百万円 (対前年： - 1.1 百万円)

※端数の影響により、数値に差異がでることがあります

委託費が増加していますが、 医業収益が伸びていることもあり、 医業収益比率では同水準を維持できました

本吉病院 令和 2 年度～令和 4 年度 費用内訳別推移



地域医療構想を踏まえた役割の明確化に 向けた取組状況とその評価

地域における医療ニーズを踏まえ、市立病院は急性期と回復期の一部、本吉病院は急性期と在宅医療など、役割に応じた医療を提供するとともに、回復期機能の充実に向けた更なる取組を進めました

地域医療構想を踏まえた役割の明確化

病院	新改革プランにおける アクションプラン	R 4 年度の実績状況	R 4 年度 実績数値	各年度の評価					
				R 4 年度	R 3 年度	R 2 年度	R 元 年度	H30 年度	H29 年度
市立病院	地域医療構想を踏まえ、回復期病床を新設	- 令和 4 年度から回復期病棟48床をフルオープンさせたが、入院患者数が40人を上回ると、担当リハビリ技師のマンパワーが不足することから入棟調整が必要だった。回復期病床の人員体制については、理学療法士・作業療法士を合わせて令和 3 年度より 3 名増員でき、24名体制となったが、引き続き、リハビリ技師、看護師等必要な人員の確保を進めていく計画としている - フルオープンに併せて、市内の民間医療機関 1 施設と回復期病棟への直接入院の仕組みを構築した	48床/48床	A	A	A	A	A	A
	救急医療、周産期医療などを維持継続し、気仙沼地域の中核的病院として、本地域に不可欠な医療提供体制の維持	- 感染症、リハビリ、周産期、小児、救急、高度医療など、圏域の中核病院に求められる医療を提供し、必要な体制維持に取り組んだ - 地域の在宅医療を受ける患者を緊急時に受け入れる体制が整っていることから、令和 4 年 8 月に在宅療養後方支援病院の届け出をし、承認を受けた - 救急車の受入れは令和 3 年度より76件増加し、2,186件だった	—	A	A	A	A	A	A
本吉病院	在宅医療の推進と市立病院との連携の強化	- 市立病院が在宅療養後方支援病院の承認を取得したことに併せて、本吉病院が在宅診療を提供している患者の後方病院登録を進め、2 病院の一体的な運営による地域医療の充実に取り組んだ - 市立病院との患者を介した連携に加え、感染対策の向上に向けた合同カンファレンスや訓練の実施にも取り組み、2 病院の密接な連携及び一体的な運営に取り組んだ	—	A	A	A	A	A	A

新型コロナウイルス感染症禍においても、医療・介護・福祉連携、医療人材の育成・教育の面で地域貢献に取り組みました

地域包括ケアシステム構築に向けて果たすべき役割

病院	新改革プランにおける アクションプラン	R 4 年度の実績状況	R 4 年度 実績数値	各年度の評価					
				R 4 年度	R 3 年度	R 2 年度	R 元 年度	H30 年度	H29 年度
市立病院	地域医療連携室※を中心とした、保健・医療・福祉・介護との連携	- 広報誌「つなぐ」を発行し、市内、南三陸町及び陸前高田市の医療機関や、介護・福祉関係の事業所等へ配布するなど、総合患者支援センターの紹介、入退院支援業務や前方連携業務に関する実績の情報提供を行った - 地域包括ケア推進協議会や気仙沼・南三陸地域在宅医療福祉推進委員会に出席し、情報交換を行い連携強化に努めた	—	A	A	A	B	B	C
	介護事業所等の各種研修会に対して認定看護師を講師として派遣	認定看護師を各看護学校や医療機関、福祉・介護施設等へ講師派遣している。特に感染管理認定看護師は、南三陸病院や本吉病院にて施設内ラウンドを通じた研修講師を務め、地域全体の医療の質の向上に貢献した	—	A	A	A	B	B	C
本吉病院	住民との対話の機会を増やし、地域で必要とされる医療の把握に努め適切な対応ができるよう病院の体制を整える	- 地区健康講話で「新型コロナウイルス感染症」、社会福祉協議会の家族介護教室で「介護のポイント」、健康教室で「転倒予防」について、地域住民へ情報を提供するなど、住民と対話する場へ可能な限り参加した - 本吉子育て支援センター広報誌に、子供の病気についての解説を定期的に掲載した	—	A	B	B	B	B	B

市立病院では、医療機器等整備を厳格に審査し、企業債の新規発行を抑えるなど、基準外繰入額の減少に努めました

一般会計負担の考え方

病院	新改革プランにおける アクションプラン	R 4 年度の取組状況	R 4 年度 実績数値	各年度の評価					
				R 4 年度	R 3 年度	R 2 年度	R 元 年度	H 30 年度	H 29 年度
市立病院	「経営安定・健全化に向けた方策と長期収支計画」に基づき、基準外繰入の解消を目指した取組を進める	医療機器整備委員会で医療機器の購入について厳格に審査を行い、将来の企業債元利償還金の抑制を目指し、令和 4 年度も企業債の発行を控えた	令和 4 年度 企業債発行額 0 百万円						
		- 令和 2 年度末に旧病院施設を市へ移管したことから、収益的収入に計上される旧病院に関する基準外繰入金が令和 3 年度で終了したことから、収益的収支に対する基準外繰入が大幅に減少した - 医療機器の購入については、厳格に審査し予算内の購入に努めたことで、資本的収入に計上される基準外繰入金が令和 3 年度から21百万円減少した	令和 4 年度基準外繰入額 実績額 191百万円 うち 収益的収支 12百万円 資本的収支 179百万円	B	B	B	B	B	B
本吉病院	料金収入の増加と経費の抑制に努め、繰入金の減額を目指した取組を進める	新型コロナウイルス感染症の影響がある中、診療等による料金収入の適切な確保、費用の抑制に努めた結果、引き続き繰入金は基準額以内となった	令和 4 年度 繰入金実績 189百万円	A	A	A	A	A	A

医療機能・品質の向上に向け、引き続き効率的で質の高いリハビリテーションの提供、安心して出産ができる環境整備に取り組みました

医療機能等指標に係る数値目標（市立病院）

病院	新改革プランにおける アクションプラン		R 4 年度 の取組状況	R 4 年度 実績数値	各年度の評価					
					R 4 年度	R 3 年度	R 2 年度	R 元年度	H30 年度	H29 年度
市立病院	医療機能 ／ 医療品質	リハビリテーション 単位数 参考値：57,000単位	- 総リハビリテーション提供単位数は、令和 3 年度実績と比べ3,251単位減少したものの、回復期リハビリテーション病棟における脳血管疾患リハビリテーションの単位数が、令和 3 年度実績と比べ4,606単位増加した - 若手のリハビリ技師の採用を積極的に進めたこともあり、リハビリテーション技師 1 人あたりの取得単位数は、令和 3 年度の15.7単位から14.2単位に減少したものの、体制は徐々に充実しつつある - 引き続き、患者の在宅復帰に向け、医療安全と経営のバランスを踏まえた部門運営に努めている	115,800 単位	A	A	A	A	A	A
		分娩件数 参考値：440件	- 出生数が減少し続けている中、令和 3 年 1 月から産後 2 週間後健診への全面的な協力を開始しており、患者を積極的に受入れ、産後のメンタル面に対するフォローの強化に努めた - 新型コロナウイルス感染症の影響で中断をしていた集団で実施するパパママ教室について、ホームページで閲覧できるようコンテンツを作成した	264件	B	B	B	B	B	C
		臨床研修医 受入人数 参考値：10人	- 臨床研修医 1 年目・2 年目とも 6 名を受け入れた - 東北大学の卒後研修における地域医療重点プログラムの協力病院となり、3 名（常勤換算 1 名）の研修医を受け入れた	13人	A	A	B	B	A	A

限られた人員体制の中で地域医療に貢献しました

医療機能等指標に係る数値目標（本吉病院）

病院	新改革プランにおける アクションプラン		R 4 年度 実績数値	各年度の評価						
				R 4 年度	R 3 年度	R 2 年度	R 元 年度	H30 年度	H29 年度	
本吉病院	医療機能 ／ 医療品質	在宅医療対象患者人数 参考値：120人	- これまでの取組を継続し、 患者・家族が求める医療を提供し、 在宅医療を希望する患者は全て受け入れた - 患者や家族が希望する医療サービスの 1 つとして、在宅医療が選択できるよう努めた	172人	A	A	A	A	A	A
		在宅復帰率 参考値：85.0% 在宅復帰率＝自宅へ退院した患者数／ 自宅からの入院数－死亡退院数	食べる支援、 誤嚥性肺炎予防、 生活の場に帰るためのリハビリに取り組み、 退院後の選択肢として何かあったときは本吉病院で対応することを示しながら在宅を積極的に提示している	68.6%	B	B	A	A	A	A
		在宅看取率 参考値：30.0% 在宅看取率＝自宅＋施設での看取数／ 全看取数	個々のケースに合せた支える医療のもと、 在宅で看取ることができる体制を構築しており、 積極的活用を心がけている。患者本人・家族の状況変化にも柔軟に対応しながら、 納得していただけるよう全職員が意識し取り組んだ	15.1%	B	A	A	A	A	A
		臨床研修医受入人数 参考値：20人 地域医療分野での 1 か月間研修を 1 人と数える	臨床研修医の 2 年次地域医療研修（1 か月）を17人受け入れた。また、 医学生の地域医療実習も積極的に受け入れた	17人	B	C	C	A	A	A

地域住民に対して、市立病院はホームページを、本吉病院は地域の会合を活用し、病院や医療に関する情報提供を広く行いました

住民の理解のための取組

病院	新改革プランにおける アクションプラン	R 4 年度の実績状況	R 4 年度 実績数値	各年度の評価					
				R 4 年度	R 3 年度	R 2 年度	R 元 年度	H 30 年度	H 29 年度
市立病院	回復期リハビリテーション病棟の機能について、市民の理解を深めるよう広報していく	- 住民向けの「市民医学講座」や病院指標等の病院情報を、ホームページを通して積極的に公開した - 外来待合に電子広告板を設置し、各種宣言や医療情報等を提供した	—	A	A	E	A	B	B
本吉病院	本吉病院が行う在宅医療の取組について、本吉病院の取組等を周知して市民の理解を深めるよう努めていく	- 新型コロナウイルス感染症のため、令和 4 年度も地域の会合が中止・延期になることも多かったが、市民フォーラムでは「高齢期のフレイル予防」を、社会福祉協議会の家族介護教室では「介護のポイント」、健康教室で「転倒予防」を実施し地域住民の健康増進等に取り組んだ - 介護事業者から、介護する側からみた在宅生活上の不安を聞きだし、本人だけでなく、家族と介護者の負担・不安の解消に努めた	—	A	B	B	B	B	B

再編・ネットワーク化に向けた取組状況と その評価

医療機能再編の取組の一環として、市立病院では地域包括ケア病棟の導入に向けた準備やDPC制度への移行を行いました。また、本吉病院でも個々の介護事業者等との連携を密にし、地域におけるネットワーク化に取り組みました

再編・ネットワーク化について

病院	新改革プランにおける アクションプラン	R 4 年度の実施状況	各年度の評価					
			R 4 年度	R 3 年度	R 2 年度	R 元 年度	H 30 年度	H 29 年度
市立病院	高度急性期は他の医療圏とも連携をしながら急性期を中心に回復期まで対応することで、安心でより良い地域医療を提供 地域の医療機関との連携を緊密にしながら医療情報の共有化を充実し、物流等の効率化の検討を進める	- 急性期医療における地域の中核的な役割の大部分を担っていることを踏まえ、より一層の医療の標準化・効率化に向け、令和4年4月よりDPCによる入院医療費の請求を開始した - 市内の入院機能が縮小し続けていることを踏まえ、市立病院のさらなる回復期機能の拡充に関する検討を行った - 地域包括ケア病棟の導入に向け、1病棟を地域包括ケア準備病棟と定め、届出に必要な実績要件の達成に向けた取組を続けた	A	A	A	A	B	B
本吉病院	地域の医療・福祉関係職員や介護事業所等との連携を深める	- 新型コロナウイルス感染症が依然として流行していたこともあり、一堂に会しての情報交換の場を設けられなかったため、地域医療支援システムを活用したオンラインによる患者情報の共有等、個々のケアマネジャーとの情報交換を密に行うよう意識的に取り組んだ - 市民フォーラムに参加し「高齢期のフレイル予防」について、また地域参加型事例発表会では「これからの地域包括ケア」について発表を行い、地域の医療・福祉関係職員や介護事業所等との連携機会を設けることができた	A	B	B	A	B	B

経営形態の見直しに向けた取組状況と その評価

事業管理者のもとで、病院事業局全職員が一丸となって病院経営に取り組み、市民の医療ニーズや医療制度の変化に柔軟に対応しながら、良質な医療の提供の実現に努めました

経営形態の見直しについて

病院	新改革プランにおける アクションプラン	R 4 年度の実績状況	R 4 年度 実績数値	各年度の評価					
				R 4 年度	R 3 年度	R 2 年度	R 元 年度	H 30 年度	H 29 年度
市立病院	新病院開院後のH30年度に「（仮称）市立病院経営形態検討委員会」を立ち上げ、相応しい経営形態について議論を進めていく	令和 2 年度の気仙沼市病院事業審議会からの答申を踏まえ、令和 3 年度から「地方公営企業法の全部を適用」することを決定し、計画どおり令和 3 年 4 月に全部適用に移行した	—						
本吉病院	今後市立病院と一体となって議論を進め、地方公営企業法全部適用の検討を行っていく	定期的に病院事業局会議を開催し、相互理解に努めながら、地域包括ケア病棟の開設をはじめとする市立病院と本吉病院の病床再編や 2 病院の一体的な運営に関する事など、今後の連携強化について協議した	—	A	A	A	A	A	D